

# 働き方が変わる施策を

## 6.27 職場問題に関する市教委交渉

# 越教組ニュース

越谷市教職員組合  
情宣部  
18.07.24(火)  
Tel 988-3281  
Fax 988-3283

越教組は、六月二七日に職場問題を中心とした市教委交渉を行いました。特に働き方改革については、越谷市教委の施策を評価しつつも、まだまだ現場は変わっていないことを強調。本場に現場の忙しさを解消する対策を早急に取ること、また市教委として業務削減の目標・方針を示し、それにそった具体的な対応を取ることが求めました。また、代替教員の未配置問題では現場の実態を伝え、改善を訴えました。

### 授業中心の環境を

市教委がこの間の諸施策を評価した上で、現場の働き方には大きな改善が見られないことを訴えました。

【組合】教員は限定四項目以外の勤務は命じられないことになっているのに、毎日長時間残業を余儀なくされている。この実態は全く変わっていない。教員が授業に専念で

きる環境を早急に作ってほしい。サッカー大会、陸上大会は廃止を。

【市教委】平成三二年度完全実施の新学習指導要領の完全実施に向け、カリキュラム・マネジメント検討委員会を作って、対外行事を含めて検討している。そこで一定の方向性を出す。

### 目標・方針を示し対応を

市政六〇周年のイベントとして各校に案山子を作らせたり、なわとび大会に学校を巻き込んだり、本来学校が担うべき仕事でないもので学校に持ち込まれている実態を指摘し、市教委として教員の働き方改革の目標

・方針を表明し、それに基づいた対応を取るよう求めました。

【組合】まず、市教委として教員の働き方改革を進めていること、そのための目標や方針を表明して、小体連やPTA、自治会などに理解、協力を求めていくこ

とが必要だ。

【市教委】学校は、いろいろな方々の関わりで成り立っている。学校だけの都合で、行事への参加要請を断ることは難しい。市教委としては、できることを、しっかり準備して進めている。

### 「未配置」を早急に何とかして

学校に大きな負担を強いる代替教員の未配置問題。その深刻さを訴えた。市教委からは、必死な取り組みが語られ、制度自体の問題であることが改めて浮き彫りになった。

【組合】昨年の七月から病休・休職に入った方の代員が年度中未だなかった。この間、教務主任が担任として入った。教務主任は、教務主任の仕事

### 他団体のイベント持ち込まないで

「なわとび大会」「つな引き大会」等を学校に持ち込まないことを求めたが、市教委は「申し込み手続きだけを学校にしておらう」という認識。現場の実態を訴えた。

【組合】つな引き大会

は、子どもは一人一人応募してくるが、それを元にチーム編成をするのは学校。監督は、教師。当然、練習や当日の引率も教師。学校が申し込みを肩代わりしているのではない。また、お菓子配付を学校に任せられたがや

### 働き方改革に数値目標を

文科省は教員の働き方について数値で目標を立てるよう求めている。そこで市教委にも数値目標を立てることを求めた。

【組合】昨年一二月の緊急対策では「教師が長時間勤務により健康を害さな

いために、勤務時間に関する数値で示した上限の目安を含むガイドラインを検討し、提示する。」とある。市教委でも数値目標を出すべき。

【市教委】ICカードによる勤務時間の把握等

と担任のかけ持ちだった。また、この四月から別の方が病休に入られたが、出てくるまでの二ヶ月半代員が来なかった。さらに産休の代員も遅れている。安心して子育てや出産ができない状況になっている。何とかしてほしい。

【市教委】市教委としても必死に探している。東部教育事務所はもとより、近隣大学さらに関東・東日本の大学まで声をかけている。

その中で、日光から、仙台から、大分から来てもらったり、これから来てもらう予定。病休・休職は現在十一名いるが、三名が未配置。二名の配置のめどが立っている。また、県教委にも強く働きかけている。今年度、すでに四回ほど指導主事が行けばすむ会議に学務課長が出向き、現状を伝え何とかならないかと訴えてきた。

めさせてほしい。【市教委】お菓子配付については、当日配付するように伝える。練習等については、できるだけ学校の負担にならないようにと大会主催者に伝える。

で、今後様々な情報が蓄積されることから、それらを参考にどのような目標を設定することが適切か調査研究する。

■土曜日授業、長期休業日の短縮について

【市教委】現在のところ考えていない。カリキュラム・マネジメント検討委員会で議論を積み重ねていきたい。

■折り鶴・人権標語カード等やめてほしい。意義は分かるが、学校全体の業務量を考えるとほしい。

【市教委】取組の中で、「命の大切さ」や「相手への思いやり」など、人権について考える機会としてほしい。また、東日本大震災をはじめ様々な自然災害の被災地や被災者の方々へ思いをはせる機会としてほしい。